

エネルギー回収施設処理方式の検討について

1 処理方式

2020（令和2）年度に実施した施設基本計画において新ごみ処理施設の処理方式は、以下の2方式4種類に絞られています。

○焼却方式（ストーカ式）

乾燥、燃焼、後燃ストーカを用いて徐々に燃焼する方法で、採用実績が多い方式

○焼却方式（流動床式）

流動砂を加熱し流動させて短時間で燃焼する方法で、現状のごみ処理施設であるみどり園の処理方式

○ハイブリッド方式（メタンガス化＋焼却（ストーカ式））

ごみを選別し、バイオマス成分が多いごみについては液化して嫌気性菌によりバイオガス（メタン）を生成させ燃料として回収する。初めの選別でバイオマス成分が少ないごみ及びメタンガス回収後の残渣は、ストーカ方式焼却炉で焼却する方法

○ハイブリッド方式（メタンガス化＋焼却（流動床式））

ごみを選別し、バイオマス成分が多いごみについては液化して嫌気性菌によりバイオガス（メタン）を生成させ燃料として回収する。初めの選別でバイオマス成分が少ないごみ及びメタンガス回収後の残渣は、流動床方式焼却炉で焼却する方法